金沢大学 環日本海域環境研究センター 臨海実験施設

実習タイトル	**能登半島の海洋動物相と生化学実習**

実習内容

海洋には様々な生物が棲息しており、陸上には見られない多くの分類群が特異な生活を送っています。特に本施設が位置する能登半島周辺は地形の複雑さを理由として、多様な海洋生物を観察することができます。本実習では、夏の能登半島における海洋動物の採集・観察・同定を行う野外実習と、海洋生物を材料とした生化学の基礎的操作を学びます。

野外実習では沿岸性の底生動物と浮遊生物を対象に、磯での採集、実習船からのプランクトンネット及びドレッジによる採集、水中メガネ・シュノーケル・フィン・ウエットスーツを装着した水中観察を通して、動物の採集・観察法の基礎を学びます。採集した生物は施設に持ち帰り、肉眼および顕微鏡で観察・同定します。実習中には講義も行われ、多様な動物相が存在する背景や知識を学習し、実習で得られた知見をより深い理解につなげます。

生化学実習は次の 2 コースから 1 つを選べます。魚類生化学実験コースでは、生きている海産魚を使用して魚類の麻酔・試料の経口投与・注射器による採血・分光光度計を用いた生化学試験を実施します。また実験計画設計からデータの統計解析まで、研究を始めるために必要な知識を学習します。海産動物分子生物学実験コースでは、海産動物を用い環境汚染物質への生物影響評価を行います。海産動物を用いたバイオアッセイや、哺乳類細胞株を用いた環境汚染物質受容体の活性測定や局在解析を介して、環境毒性学的研究について実践的な内容を学習します。

実習内容キーワード	シュノーケリング、乗船、磯採集、海産無脊椎動物、生化学実験、魚類への経口投与実験、環境汚染物質影響評価		
担当教員氏名・所属・役職名	鈴木信雄（環日本海域環境研究センター・教授）、松原　創（生命理工学系・教授）・関口俊男（環日本海域環境研究センター・准教授）、木谷洋一郎（環日本海域環境研究センター・助教）、豊田賢治（環日本海域環境研究センター・特任助教）		
協力教員氏名・所属・役職名	布村 昇（環日本海域環境研究センター・連携研究員）、のと海洋ふれあいセンター		
対象学生・学年	学部 1 年、学部 2 年、学部 3 年、学部 4 年、修士、博士、これまでに高専の学生を受け入れたことがある	開講期間	2023 年 8 月 28 日（月）～9 月 2 日（土）
開講大学・施設名	金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設		
施設の住所	〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木ム 4-1		
電話	0768-74-1151	Fax	0768-74-1644
e-mail	nobuos@staff.kanazawa-u.ac.jp	Web Site	http://rinkai.w3.kanazawa-u.ac.jp/
交通案内	金沢駅より実習施設まで往復ともマイクロバスで送迎予定です。8 月 28 日、金沢駅に 11 時に集合してください。詳細は受講決定後に本人へ連絡します。能登空港の利用（羽田-能登間 1 日 2 便運行）を希望する学生は事前に連絡して下さい。		
費用	宿泊費 3,000 円（600 円×5 泊）、のと海洋ふれあいセンター入館料 420 円（210 円×2 回）と毎日の食費。シュノーケリングに参加する場合は器材使用料等として 1,000 円必要です。 詳細は受講決定後に本人へ連絡します。		
授業科目名	第 2 回金沢大学公開臨海実習：臨海実習 2（野外実習 2）		
単位数	2 （公私立大学の学生については単位認定を行わないかわりに受講証明書を発行します ）	定員数	10
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	先着順、定員を大幅に超える場合は抽選とします。 申し込み締切：2023 年 7 月 7 日（金）		
選抜結果連絡法	本人宛に受講許可証を郵送します。		